



# 野田小だより

学校教育目標

活力にあふれた学校

- がんばる子
- やさしい子
- 学びつづける子

5月

## 自分のことは自分で

平成29年5月1日  
校長 小林 達哉

平成29年度がスタートして1か月が経ちました。校庭の桜は葉桜となりましたが、ハナミズキの花がとてもきれいに咲いています。そんな中、子どもたちは、それぞれ新学年の目標を立て、どの子も生き生きと学校生活を送っています。

新年度が始まって間もないので、低学年などは、登校時に忘れ物はないか、お家の方がチェックされているお家も多いのではないかと思います。忘れ物をしてしまうと、学校でその日に学ぶべきことを十分身に付けられずに1日が終わってしまいますから、大変なことになってしまいます。でも、その時に少しだけ配慮をしていただきたいことがあります。

お家の方が、学校からの手紙や連絡帳をもとに、持ち物を全てランドセルの中に入れてあげたり、宿題も～をやりなさい、と指示したりしていませんか。そうすれば、確かに忘れ物はしないし、担任に注意されることもありませんから、翌日は、平和な1日を過ごすことができます。

でも、全て親や大人にセッティングされたり、指示されたりする中で育つ子どもは、将来どんな大人になるのでしょうか。失敗したら人のせいにして、言い訳をする。自分で考えて行動するのではなく、指示されたことしかやらない。そんな大人になってしまうのではないかと、心配で仕方ありません。

自分でやると、うまくできなかつたり、間違えたり、失敗することも多くなるでしょう。しかし、それが次の自立につながっていくのです。例えば、ランドセルに必要な物を入れる時に、乱雑に入れると、入りきりませんから、入れる物の大きさや入れる位置を考えて順番に入れる。こんな些細なことでも、自分なりに考えて、判断して、行動に移しているのです。もし、ランドセルに入りきらない物があった場合は、どの大きさの袋に入れていけばよいのか、家にある物の中から選ぶ。小さいことですが、これも自分の頭で考えて、自己決定をして、主体的に行動する練習を積んでいるのです。この経験が、次に他の場面でも生かされていくのです。

失敗することにより、次に失敗しないためにはどうすればよいのかを考えるし、大人に頼れないとなれば、自分自信で考え、判断し、行動するのです。その積み重ねが、状況に応じて臨機応変に行動できる人間、社会性をもった人間を育てていくのだと思います。もちろん、発達段階に応じて大人が手をかけ、目をかけ、気をかけることも必要な場面もあります。

このように考えた時、日常生活の中には、子どもが自分でできることは、たくさんあります。大人がやっつけてしまえば、間違いはありませんし、何よりもてっとり早くできて、スピード感を持って生活できるかもしれません。

現在は、欲しいものは何でも手に入るし、何不自由なく生活できる環境が整っていますが、あえて、不便、不自由な状況を経験させたり、我慢する経験をさせたり、自分で判断して行動する経験をさせたりすることが、子どもの豊かな発想や主体性を育み、より良い生き方ができるようになっていくのではないのでしょうか。

10年後、20年後のお子さんの姿を考えながら、現在の生活を見直してみませんか。

野田小学校にも、そのお手伝いを是非させてください。



1年生を迎える会